

市民病院だより

心不全について

内科 医師 龍 俊宏

心不全とは

心臓は常に休むことなく、体の隅々まで血液を送り出すポンプとして働いています。このポンプの働きが悪くなり、体の臓器に十分な血液を送ることができなくなった状態を心不全と言います。その低下が急に起こってきたのが急性心不全、徐々に起こり、進行していくのが慢性心不全です。慢性心不全が急に悪くなったものは「慢性心不全の急性増悪」と言います。

心不全の症状

心不全の症状には、全身の臓器に十分な血液を送ることができず、心拍出量が低下するため起こる症状と、全身の血液が心臓に戻る機能が弱り、血液がうっ滞することによって起こる

症状があります。

心拍出量が減ったための症状として、疲れやすい、だるい、動悸、四肢冷感などがあります。血液のうっ滞による症状には足のむくみ、息切れ、呼吸困難などがあります。症状が軽いうちは階段や坂道などを登った時や力仕事で息が切れる程度ですが、進行すると、ちよつと歩いたり、体を動かしたりするだけでも息苦しくなります。もっと悪くなると、安静にしているも症状が出るようになり、夜中寝ている時に喘息発作のように息がゼーゼーいうなど、息苦しさを寝られなくなることもあります。横になると息苦しく、体を起こした姿勢で息苦しさが軽減する、起座呼吸と言われる状態まで進んでしまうと、すぐにも入院する必要があります。

心不全の原因

心臓自体の病気である狭心症、心筋梗塞による虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症、高血圧性心臓病、先天性心疾患のほか、間接的に心臓に害を及ぼす高血圧、不整脈、貧血、甲状腺機能亢進症などが心機能の低下をきたします。慢性心不全でも風邪、過労、ストレス、内服薬の中断、塩分や水分の過剰摂取などがきっかけで症状が急激に増悪することも多くみられます。

心不全の検査

心不全の兆候が見られれば、まずは胸部レントゲン、心電図、心エコー検査が一般的に行われます。場合によって心臓カテーター検査、冠動脈CTや冠動脈造影、心臓電気生理検査などが心不全の原因検索で必要となる可能性があります。

心不全の治療

一般的な治療としては安静、飲水制限とし、利尿剤、血管拡張剤などの内服、注射薬の藥物治療が通常使われますが、心機

能低下が強いケースは場合によっては心臓同期療法という、ペースメーカーによる治療法などが行われることもあります。

また、基礎疾患の治療としては、虚血性心疾患であれば冠動脈形成術、不整脈が原因であればカテーターアブレーション、心臓弁疾患に対しての弁置換術など、それぞれの原因となる疾患に対しての治療が必要となる場合があります。

高齢者の場合、息切れなどがあっても歳のせいと思い、重症化してから初めて病院を受診するケースも多く見られます。

息切れや動悸は、慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患など、心不全以外が原因のこともありますが、心臓の病気が隠れていることもあります。足がむくんできて体重が増えたり、動悸や息切れが増えたと感じたりしたら、心不全を疑って早めに病院を受診してください。



お知らせ

小児科・産婦人科・自由診療の夕方診療を行っています。
(毎週木曜日)

詳細は、市民病院ホームページや電話にてご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>